中学校第３学年音楽科学習指導案

Ⅰ　題材名　　カノンコード（和声進行）の響きを感じ取り、音の重なりを生かして音楽をつくろう
　教材名　「自分たちの卒業式のための音楽づくり」（創作）
　　「３つのヴァイオリンと通奏低音のためのカノンとジーグ」パッヘルベル 作曲（鑑賞）

Ⅱ　大会主題との関わり

【本時でイメージするより高まった生徒の姿】

「卒業式の音楽づくり」の創作活動を通して、表したいイメージと関わらせながら音素材の特徴及び構成上の特徴を理解し、それらを生かしながら思いや意図をもってまとまりのある音楽を創作することに創意工夫して取り組む生徒の姿

Ⅲ　本時の視点

表現を繰り返し試行させたり、価値付けたりする場を設定することは、音素材の特徴及び構成上の特徴を生かし、思いや意図をもってまとまりのある音楽を創意工夫してつくり上げることに有効であったか。

Ⅳ　考察

１　題材観

本題材における学習内容の新学習指導要領上の位置付けと、本題材で扱う主な音楽を形づくっている要素は、以下のとおりである。

Ａ表現⑶ア	創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫すること。
イ	(ｲ)　音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴
ウ	創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。
Ｂ鑑賞　ア	(ｲ)　生活や社会における音楽の意味や役割
イ	(ｱ)　曲想と音楽の構造との関わり
本題材で扱う主な音楽を形づくっている要素 音色、旋律、和音、リズム、構成、テクスチュア	

本題材では、パッヘルベル作曲「カノン」の鑑賞から、循環コードの仕組み・旋律の変化を理解し、その経験を基に、表したいイメージと関わらせながら、音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成を理解するとともに、それらを生かしたまとまりのある創作表現を創意工夫して音楽をつくる学習を行う。

教材については以下のとおりである。

パッヘルベル作曲「カノン」は、ドイツの作曲家パッヘルベルによる「３つのヴァイオリンと通奏低音のためのカノンとジーグ」の第１曲である。曲の最初から最後まで繰り返される通奏低音の

循環コードの醸し出す雰囲気や、４分音符の順次進行で始まる旋律が徐々に変化・発展しながら２小節ずつずれて重なっていく特徴に着目して鑑賞させる。また、繰り返されるコード進行（Ⅰ－Ⅴ－Ⅵ－Ⅲ－Ⅳ－Ⅰ－Ⅳ－Ⅴ）は、バロック時代から現代まで様々なジャンルの曲に使用されており、明るすぎず、また適度にマイナーコードを使用することで感動的な雰囲気を醸し出すことができる。

また、本題材では「カノン」特有のコード進行の雰囲気を生かして、自分たちの卒業式の音楽づくりを行う。中学校生活の思い出の場面を想起し、表現するための思いや意図、イメージをもたせながら音のつながり方や反復・変化・対照などの構成上の特徴を生かした旋律づくりを行わせる。そして、グループごとに個人のつくった旋律のつなげ方や重ね方など構成を工夫したまとまりのある音楽を完成させる。さらに、本校の特色である「一人一楽器」として取り組んできた管・打楽器を創作の学習に生かしながら活用することで、それぞれの担当する楽器の音色の特徴を生かした工夫もさせていきたい。

また、本題材の系統は、以下のとおりである。

学年	題材名・内容	主な音楽を形づくっている要素
第１学年	**言葉と旋律との関わりを感じ取って、表現を工夫し旋律をつくろう** 曲想や言葉の特性に関心をもち、それらを生かして簡単な旋律をつくる。	リズム、速度、旋律、強弱、形式
第２学年	**音楽の構成の仕方を理解し，旋律をつくろう** 音階の特徴、反復、変化、対照などの構成上の特徴、音楽の構造と曲想との関わりに関心をもち、それらを生かして音楽表現を工夫して旋律をつくる。	音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、形式、構成
第３学年	**カノンコード（和声進行）の響きを感じ取り、音の重なりを生かして音楽をつくろう** 音素材の特徴及び和音、反復、変化、対照などの構成上の特徴や全体のまとまりに関心をもち、それらを生かして音楽表現を工夫して旋律やまとまりのある音楽をつくる。	音色、旋律、和音、リズム、構成、テクスチュア

２　生徒の実態（男子　８名・女子１２名　計２０名）

〈知識及び技能〉

生徒はこれまでに、鑑賞領域では、１年次では音楽を形づくっている要素や構造と曲想の関わり、２年次では動機の反復や変化、旋律の組合せ方等と曲想との関わりが生み出す特質や雰囲気を感じ取ることを通して、曲想と音楽の構造との関わり、３年次では二つの主題（旋律）の反復と小太鼓の持続されるリズムによって音楽が構成されていることを理解することができている。

また、表現領域の創作分野では自分たちなりにリズムを工夫しながら言葉の特徴を生かしてリズムアンサンブルで表現することができている。

さらに、本校独自の取組である「一人一楽器」では、管・打楽器に親しむことで簡単な楽曲を演奏することができている。

これらのことから、パッヘルベル作曲「カノン」では、旋律と和音との関わり、旋律の変化などによって生み出される曲想との関わりを理解させ、「自分たちの卒業式のための音楽づくり」でこれまでの学習で習得した知識や技能を基に創作表現に生かせるようにしていきたい。

〈思考力、判断力、表現力等〉

これまでの創作活動では、リズムを全員で演奏したり少しずつ重ねるなどリズムをずらして重ねたり、交互に演奏したりすることで、テクスチュアの変化によって生み出される雰囲気の違いを感じ取

ることができた生徒が何人か見られた。また、同じリズムを何度も繰り返すことで、伝えたい内容を強調したり、少しずつリズムを変化させることで音楽の広がりを表現したりするなど構成上の工夫をする生徒も見られた。しかしながら、ほとんどの生徒は自分たちのイメージを表現するために反復・変化などの要素を生かすのではなく、形式的に繰り返したりリズムを変化させたりするだけの活動になっていた。その理由として、イメージと音楽を形づくっている要素とを関連付けながら思いや意図をもって表現する力が身に付いていないことが考えられる。本題材の学習では、それぞれの表したいイメージや思いや意図を大切にしながら生徒がどのような音楽をつくりたいのかを明確にさせていきたい。

〈学びに向かう力、人間性等〉

ほとんどの生徒が、音楽の学習に意欲的に取り組み、これまでの創作活動にも楽しんで取り組んでいる様子が見られた。しかし、中には個人で言葉の特徴をリズムで表現するのに苦労する生徒も数名見られ、学習活動において個々の取り組む意欲や態度に差が見られることもあった。学習に意欲的に取り組むことが難しい生徒に対しては個別の支援を行なう他、グループでの交流を活発に行うなど、生徒同士が教え合い、学び合える場の設定をしていきたい。

Ⅴ　目標

○旋律、和音、リズム、テクスチュアや音素材の特徴及び構成上の特徴と曲想との関わりを理解し、それらを生かしながらカノンコードに含まれる音を使って音楽をつくる知識及び技能を身に付けることができるようにする。【知識及び技能】

○旋律、和音、リズム、テクスチュアや音素材の特徴及び構成上の特徴と曲想との関わりについて考え、それらを生かしてどのような音楽にするかについて思いや意図をもち、まとまりのある創作表現を創意工夫して音楽をつくることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】

○旋律、和音、リズム、テクスチュアや音素材の特徴及び構成上の特徴の関わりに興味をもって鑑賞したり卒業式の音楽をつくったりする学習に主体的に取り組むことができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

Ⅵ　評価規準

ア　音楽への関心・意欲・態度	イ　音楽表現の創意工夫	ウ　音楽表現の技能	エ　鑑賞の能力
①　旋律、和音、テクスチュアや音素材の特徴及び構成上の特徴の関わりに興味をもって鑑賞したり、卒業式の音楽をつくったりする学習に主体的に取り組もうとしている。	①　旋律、和音、テクスチュアや音素材の特徴及び構成上の特徴を知覚し、それらの働きが生み出すよさや美しさを感受しながら、それらを生かして旋律や構成を意識したまとまりのある音楽をつくることに思いや意図をもって創意工夫している。	①　旋律、和音、テクスチュアや音素材の特徴及び構成上の特徴を意識しながら創意工夫を生かした創作表現をするために、課題や条件に沿った音のつながり方を理解して旋律や構成を意識したまとまりのある音楽をつくる技能を身に付けている。	①　旋律、和音、テクスチュアや音素材の特徴及び構成上の特徴の関わりや旋律の変化を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感受しながら、音楽を形づくっている要素や音楽の構造を理解し、曲の特徴に気付きながら聴いている。

Ⅶ　指導計画

過程	教材	時	主な学習活動	留意点・支援等
つかむ	カノン	1	○パッヘルベル作曲「カノン」を、楽譜を見ながら聴き、和声進行や旋律の特徴を捉える。	○旋律、テクスチュア、構成など聴き取る観点を示し、諸要素を意識しながら聴くことができるようにする。 ○拡大楽譜を見ながら鑑賞させることで、視覚的に曲の特徴を捉えることができるようにする。
			評価規準（評価方法）	ア①・エ①（行動観察・ワークシート）
		2	○パッヘルベル作曲「カノン」雰囲気が醸し出す理由を、和声進行に着目して探る。	○「カノン」と同じ和声進行の曲をいくつか紹介し、和音進行によって音楽の雰囲気が醸し出されていることに気付けるようにする。
			評価規準（評価方法）	エ①（行動観察・ワークシート）
追求する	自分たちの卒業式のための音楽づくり	3	○各グループで選んだ中学校生活の思い出からイメージをもち、そのイメージと関わらせながら思いや意図をもって、２小節のハ長調の旋律（動機）とそれを基に反復、変化させた２小節の旋律を創作する。 ○それぞれのイメージを共有し、各自がつくった４小節の旋律を聴き合う。	○和音の構成音から音を選び、徐々に使用する音符を増やしていくことで、スムーズに創作活動に取り組むことができるようにする。 ○自分のイメージから、どのような旋律にしたいか思いや意図を明確にさせるようにする。 ○リズムの反復、変化、対照によって生み出される曲想の変化を感じ取らせるようにする。 ○友達の作品のよさや特徴を感じ取らせ、次時の工夫の手がかりになるようにする。
			評価規準（評価方法）	ア①・イ①（行動観察・ワークシート）
		4	○イメージを表現できるよう、更に旋律を創意工夫する。 ○グループごとに個人でつくった旋律をつなげたり、重ねたりして試す。	○音の高さやリズムなど音のつながり方を工夫させ、よりイメージが膨らむようにする。 ○必要に応じて和音の構成音以外の非和声音も使用させるようにする。 ○音の出し方を試行させ、音素材への関心を高めさせる。
			評価規準（評価方法）	イ①（行動観察、ワークシート）
		5 本時	○構成を意識したまとまりのある音楽になるよう、試行しながら自分たちのイメージに合った「卒業式の音楽」を思いや意図をもって創意工夫する。	○構成図を使うことで、全員が視覚的に確認しながら様々な構成を試行できるようにする。 ○旋律のつながり方や重ね方によって生み出される雰囲気を、演奏しながら試行し確かめさせるようにする。 ○中間発表で各グループの構成上の工夫を全体で共有することで、その後の活動で構成を再工夫する際の手がかりになるようにする。
			評価規準（評価方法）	イ①（行動観察、ワークシート、構成図）
まとめる		6	○まとめの発表会を行い、それぞれのグループの表現の高まりを共有・共感する。	○演奏工夫したことを発表させ、共有させる。 ○学んだことをどのように生かしたいかを含め、題材全体の振り返りをさせる。
			評価規準（評価方法）	ウ①（行動観察、ワークシート、構成図、演奏）

Ⅷ　指導方針

（本題材を通して）

○生徒の表現することへの意欲を高めることができるよう、導入でリズム練習を行ったり、管・打楽器を使って全員で和声進行の雰囲気を演奏しながら確認したりする活動を取り入れる。

○題材を通して生徒が意欲をもって学習に取り組むことができるよう、「卒業式の音楽づくり」を題材の課題とし、生徒に身近な課題を設定する。

○生徒自身が表現したいイメージを意識することができるよう、イメージと音楽を形づくっている要素とを関わらせながら「このような旋律をつくりたい」「このような音楽にしたい」という思いや意図を明確にする。

○生徒が思考を深めることができるよう、個人やグループの音楽表現及び思いや意図を意図的に交流・共有できる場を設定する。

○個人やグループのイメージを膨らませることができるよう、繰り返し表現の工夫を試行させる。

○学びの意欲や見通しをもつことができるよう、自己の変容を振り返るとともに題材に対する思いや願いをもたせる。

（つかむ過程では）

○音楽的特徴を視覚的にも捉えることができるよう、拡大楽譜を使用する。

○和音進行によって生み出される音楽の雰囲気を感じ取ることができるよう、「カノン」と同じ和声進行の曲をいくつか聴かせる。

（追求する過程では）

○生徒がスムーズに創作活動に取り組むことができるよう、徐々に使用する音符を増やして旋律をつくる活動を行う。

○思いや意図をもって旋律の工夫ができるよう、「中学校生活の思い出」というテーマを決める。

○リズムに苦手意識を持っている生徒が意欲的に創作活動に取り組むことができるよう、常時活動で練習したリズムを活用させるようにする。

○互いのよさや工夫を各自の創意工夫に生かすことができるよう、適宜グループ活動を取り入れる。

○視覚的に情報を整理できるよう、構成図や付箋紙を活用する。

○グループのイメージをより明確にすることができるよう、音を出しながら旋律の重ね方や組み合わせ方の違いによって生み出される雰囲気を試行させる。

○全体の学びを深めることができるよう、いくつかのグループの取り組み状況を紹介する場を設定し、友達の工夫を全体で共有して自分たちの構成に生かすようにする。

（まとめる過程では）

○全体で学びの共有ができるよう、構成の工夫を説明させるようにする。

○これからの授業や生活の中で生かしていくことができるよう、題材を通してできるようになったことや分かったことなどを考えさせ、学びの振り返りをさせるようにする。

Ⅸ　本時の学習（６時間中５時間目）

１　ねらい　構成図を使い、自分たちのイメージや思いや意図に合った「卒業式の音楽」をグループごとに試行する活動を通して、イメージや思いや意図を基に音素材の特徴及び構成を意識したまとまりのある音楽を創意工夫することができるようにする。

２　展開

○学習活動・予想される生徒の反応	時間	・支援及び留意点	観点　評価規準(方法)
１　前時までにつくった自分の旋律を演奏し、学習に臨む雰囲気をつくる。 ２　本時のめあてをつかむ。	１０分	・自分の旋律の特徴を再確認させるようにする。 ・旋律のつなげ方や重ね方を様々に組み合わせて試行し、イメージに近付けるよう伝える。	
めあて：自分たちのイメージに合うように、旋律のつながり方や重なり方を工夫して、構成を工夫したまとまりのある自分たちの「卒業式の音楽」をつくろう！			
３　グループごとに、思いや意図に合った表現にするために旋律のつなげ方や重ね方を考え、試行聴取しながらまとまりある「卒業式の音楽」をつくる。 （予想される生徒の反応） ・学校生活で友達とおしゃべりしている様子を表現するために旋律を重ねてみよう。 ・一人一人の旋律の工夫を聴いてもらえるよう旋律の重なりを少なくしよう。 ・修学旅行が次第に楽しくなる様子を表現するために同じような動きの旋律をつなげてみよう。	３０分	・付箋紙を用いて旋律を色分けし、構成図に貼り付けることで、旋律のつなぎ方や重なり方をグループ全員で視覚的に共有できるようにする。 ・旋律のつなげ方や重ね方の違いから生み出される雰囲気の変化を、試行しながら確かめるよう促す。 ・試行した成果を確認することによって、各グループの思いや意図が表現につながるよう助言する。 ・途中でグループの取組状況を紹介することで、どのような工夫がされているか共有・共感させ、他グループの工夫を生かして構成の工夫を再考するなど、創意工夫の手がかりになるようにする。	音楽表現の創意工夫 イ－① 旋律、和音、テクスチュアや音素材の特徴及び構成上の特徴の特徴を知覚し、それらの働きが生み出すよさや美しさを感受しながら、それらを生かして旋律や構成を意識したまとまりのある音楽をつくることに思いや意図をもって創意工夫している。 （行動観察、ワークシート、構成図）
４　本時の学習のまとめをし、学びの振り返りと次時の学習への意識付けを行う。	１０分	・様々な表現を試行し、気付いたことや感じたこと分かったことを基に自己の変容を振り返らせるようにする。	
〈表れてほしい生徒の意識〉 ・高音楽器から低音楽器へ旋律を徐々に重ねてみたら、学校生活で友達と仲良くなっていく様子が表現できて、自分たちのイメージに合った音楽をつくることができた。次回は旋律を重ねる順番を工夫して、みんなの前で発表したい。			